

子どもの思考の連続性を導く中学校地理的分野の授業の開発
—既習知識の活用による「学習課題」「仮説」の設定方法を中心として—

教育内容・方法開発専攻

認識形成系教育コース

M11142J

畑 和馬

I 研究の目的と方法

1 研究の目的

既習知識を活用した「学習課題」の設定方法を明らかにする。また、既習知識と矛盾する「学習課題」に対して、既習知識を活用し「仮説」を設定する方法についても明らかにする。そして、これらの方法を用いて、授業モデルを開発する。

2 研究の方法

- (1)子どもの思考の連続性を導く意義と方法を明らかにする。
- (2)(1)で明らかとなったことをもとに、「学習課題」の設定方法に関する先行研究の分析・検討を行い、先行研究の課題を明らかにする。
- (3)(2)で明らかとなったことをもとに、既習知識を活用した「学習課題」の設定方法を開発する。また、既習知識と矛盾する「学習課題」に対して、既習知識を活用し「仮説」を設定する方法を開発する。
- (4)(3)で開発した「学習課題」・「仮説」の設定方法に該当する先行授業実践の分析を行う。開発した「学習課題」・「仮説」の設定方法を授業に組み込むにあたって、どのようなことを充たす必要があるかについて明らかにする。
- (5)(4)の分析結果をもとに、既習知識を活用した「学習課題」・「仮説」の設定方法を組み込んだ授業モデルを開発する。

II 論文構成

- 第I章 子どもの思考の連続性を導くことの意義と方法
- 第II章 子どもの思考の連続性を導く「学習課題」の設定方法
- 第III章 既習知識の活用による「学習課題」・「仮説」の設定
- 第IV章 既習知識を活用した「学習課題」の設定方法を組み込んだ社会科授業分析
- 第V章 既習知識の活用による「学習課題」・「仮説」の設定方法を組み込んだ中学校地理的分野の授業開発

III 研究の概要

1 子どもの思考の連続性を導くことの意義と方法

(1)子どもの思考の連続性を導くことの意義

思考の連続性を導くことにより、子どもはことばを解釈することができ、「概念的な思考」を防ぐことができる。「概念的な思考」とは、ことばと経験が連続していない思考のことをいい、『『概念的な思考』を防ぐ』とは、ことばの羅列的な暗記を防ぐことを指す。また、既習知識の法則化・一般化が可能となることが明らかになった。

(2) 子どもの思考の連続性を導く方法

「問い」とは探究の始まりを意味し、無意図的に止まるものではなく、持続していくものである。つまり、子どもの思考の連続性を導くためには、新たな「問い」を発生させることが一つの方法となることが明らかとなった。

2 子どもの思考の連続性を導く「学習課題」の設定方法

「学習課題」の設定方法について、先行研究の分析を行い、思考の連続性を導く「学習課題」の設定方法は、既習知識を活用する方法であることが明らかとなった。

3 既習知識の活用による「学習課題」・「仮説」の設定

(1) 既習知識と新たに提示する知識をつなぐ「比較」

新たに提示される知識と既習知識を関連させるためには、子どもに比較をさせることが有効であることが明らかになった。

(2) 既習知識を活用した「学習課題」・「仮説」の設定方法の開発

既習知識を活用した「学習課題」の設定方法として、①「社会事象の相違の原因を問う『学習課題』の設定方法」、②「社会事象の一致・類似の原因を問う『学習課題』の設定方法」を開発した。また、既習知識を活用した「仮説」の設定方法として、「一致法を用いた『仮説』の設定方法」を開発した。

4 既習知識を活用した「学習課題」の設定方法を組み込んだ社会科授業分析

設定した三つの分析視点をもとに、分析フレ

ームワークを作成した。それをもとに、既習知識を活用し、「学習課題」を設定している先行授業実践を分析した。

5 既習知識の活用による「学習課題」・「仮説」の設定を組み込んだ中学校地理的分野の授業開発

既習知識の活用による「学習課題」・「仮説」の設定を組み込み、「日本の諸地域」における「環境問題や環境保全を中核とした考察」(近畿地方)の授業モデルを開発した。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 子どもの思考の連続性を導くことの意義と方法を明らかにすることができた。
- (2) 子どもの思考の連続性を導く「学習課題」の設定方法を明らかにすることができた。
- (3) 既習知識の活用による「学習課題」・「仮説」の設定方法を開発することができた。
- (4) (3)の開発した「学習課題」・「仮説」の設定方法を組み込んだ中学校地理的分野の授業モデルを開発することができた。

2 今後の課題

- (1) 開発した「学習課題」・「仮説」の設定方法の有効性を、実践をとおして明らかにする。
- (2) 開発した「学習課題」・「仮説」の設定方法が中学校歴史的分野・公民的分野にも活用可能であるかを明らかにする。

主任指導教員
指導教員

原田 智仁
米田 豊